

県板青年部幹事会報告

県板青年部は、平成14年度第3回幹事会を10月6日(日)愛知県板事務所3階において開催した。

幹事会の前に、厚生委員会委員長・沼沢啓二氏より県板共済制度の説明・加入促進について話を聞いた。

(議題)

一、第23回あすなろ研究会の報告

二、全国建築板金競技大会講習会について

三、全国建築板金競技大会愛知県予選会について

四、その他

(内容)

あすなろ研究会の報告では、メインテーマ「あすに挑戦」サブテーマ「未来を拓く組合作りの創造」という漠然としていた為、意見がまとまらなかったように思えた。名古屋駅からマイクロボスで津に向かった。帰りに国宝の彦根城に立ち寄った。参加者は9人で会費は一万円。今回は、四国ブロックの高知県に内定している。

全国建築板金競技大会講習会については、技能競技の部の課題は「花器」、建築技術の部の課題は「リフォーム」についての施工図・リフォーム提案書・見積書」で、平成14

年11月10日(日)に岡崎地域職業訓練センターにおいて開催する。技能競技の部では、講師に石原晴久氏を招いて展開図の書き方を受講し、建築技術の部では、講師を招かないで自分達で課題についてどのようにしたらよいか考えることにした。参加者を11月5日までに本田部長に連絡すること。

全国大会は、平成15年2月8日(土)・9日(日)静岡岡部富士宮市「富士教育訓練センター」において開催される。

全国建築板金競技大会愛知県予選会については、予選会を平成15年1月5日(日)名古屋ブロック担当で、岡崎地域職業訓練センターにおいて開催する。明細については、第4回の幹事会(12月)で決定する。各支部参加選手を12月の幹事会で報告する。

その他では、県板組合「第2回理事会」が9月19日行われたので、その時の議事録を幹事の方に見ていただいた。

「2005年5月に予定されている全板大会愛知県大会」について委員会の発足・会場についての説明、賦課金の値上げ(平成15年4月1日より)について、それぞれ本田部長より説明を受けた。

県板青年部 宇野

ものづくり愛知の祭典

第19回尾張名古屋の職人展が10月4日(金)～6日(日)まで名古屋市中区小企業振興会館(二階第一ファッション展示場)において開催されました。

現代に生きる「職人気質」をより多くの方々に知って頂くために毎年、名古屋祭り協賛事業として行われていま

す。現代、大量生産で安い商品のはびこる中、伝統職人の作り出す、技と心のこもった一味違った商品の数々を、一同に見る事が出来る良い機会でした。

愛知県の59団体(個人)の出展があり、35のブースで実演・即売(39のブース)が行われ、中でも市民参加による体験教室では、大人から子供までが楽しく挑戦しているのが印象的でした。

我が愛知県板金のコーナーはメインステージのすぐ前になったせいか恒例の竹筒花器の加工実演、即売は中々、好評な様でしたが「板金雨樋相談コーナー」を訪れる人が無いのは残念な気がした。展示コーナーには

(熱田・南)の小池正利氏と(西)の多田眞弓氏

のレリーフ、平野氏よりクラシックカー、森口建商より紹介のエピソードが展示協力して頂いていました。

今回の日割り分担は3日の搬入は鈴木氏、鷺見氏、長谷川氏と事務局。

4日(金)は(緑・熱田南・瑞穂支部と鷺見氏) 5日(土)は(千種・中・昭和・東北支部) 6日(日)は(中村・西・中川港支部と鈴木氏)に協力して頂きました。

ちなみに3日間の竹筒花器の実演即売成果は(約80本)60,600円でした。

*総入場者数(3日間) 市報告 13,756人 (熱田・南) 伊藤

にきわう会場

技術者と指導者

先日テレビを見ていた時、七十代の技術者が「仕事は、技術は教えてもらうのではなく、見て盗むものだ」と述べていました。果してそうだろうかかと私は思った。

これは私が経験した事です。十年前に、一級技能士の受験に挑戦した。その時、A校に講習を受けに行った。

実技試験の課題で落ち口部分のカリダシが上手くできなかった。先生に聞いてみた「カリダシはこうやるんだ」と言って、私の作りかけのものを作って、私に渡した。作業の手さばきは、さすがベテランと思わせるものでしたが、私には理解できませんでした。

「よくわからなかったのですが、詳しく教えてください」とお願いすると「これは俺の技術だから、本当は教えられないけど、もう一度みせてやるから見ていろ」と言われた。私

がその時思ったのは「これは学校じゃないのか」「技能試験のためにお金を払って教えてもらいに来てるんだ」と、辛くなって来た。結局誰に聞けるが教えてもらえなかった。これが「見て盗む」なのだ。

でも、そう言う事を学びに行ったのではなく、試験に合格するために一ヶ月間毎週日

曜日を決めて安くない受講料を払って自分ができない所を補うために指導を受けに行ったのである。私の言動が悪かったのだろうか。それが解決したのは試験前に行われた模擬試験で、カリダシを失敗した。模擬終了後、B校の先生に、率直に尋ねてみた

「カリダシ部分が上手くできません」と、すると先生は時間の少ない中、手取り教えてもらえませんでした。結局私の金づちの使い方に問題があり、直せばいいとの事でした。目から鱗でした。これが指導者です。地元の指導者にも教えてもらいました。その結果合格でき、指導者の方に感謝しました。

先日のテレビを見ていて、七十代の技術者とA校の先生が重なって見えました。技術が身に付けば、それが後輩に受け継がれていく、「見て盗む」も一理はあるとは思いますが、私は父にそう言われてきましたが、技術者は時には先輩に教えてもらった技術を手取り足取り後輩に伝える義務があるのではないかと思うのです。

技術者と指導者の区別はないと思うのですが、皆様はどう思われますか。一宮 田中

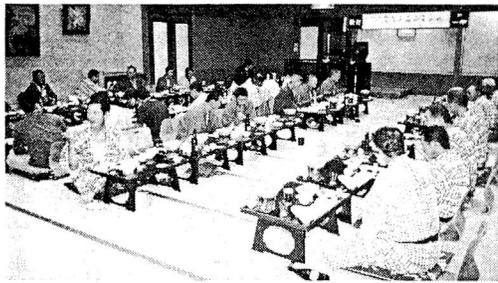
にきわう会場

初秋の草津・白根山の旅

昨年引き続き今回も、熱田・南支部と昭和支部合同の親睦旅行会が10月6日(日)7日(月)と開催されました。今回は熱田・南支部の幹事により計画された。あいにく雲行きが怪しくなった朝7時45分、荒畑駅前から神宮東へ回って8時に出発、中央道→長野道→上信越道で長野に向かった。いつもながらバスの中はビール飲み放題、予定外のトイレ休憩を取りながらなんとか予定どおり「おぎのや長野店」で昼食を取り、志賀・草津高原ルートで白根山に向かった。途中の丸池から横手山、洗峠にかけての紅葉の素晴らしさに歓声があがった。一面のくま笹と這い松の緑の中にちりばめた紅と黄色のコントラストが実に素晴らしかった。少し残念なのは天気が悪ければもっと色鮮やかに写ったはず、しかし短い紅葉の一番いい時期に出会えて、今回の旅行で一番の収穫でした。白根山の湯釜に登った頃には、ますます雲が低くなりなんとかエメラルドグリーンの湯釜を観る事が出来た。バスに戻ってまもなく一面雲の中、センターラインを頼りに下山、予定より少し早く草津温泉に到着、温



参加者たち



宴会の様子

泉街が狭くて大型バスが入れないため駐車場より迎えのバスで「ホテル一井」に着いた。「湯畑」が目の前でいい所にある老舗旅館でした。宴会までの2時間あまりを各部屋でゆっくりとくつろいで、名湯「草津の湯」を満喫して6時30分より宴会に入った。

松井支部長・小野寺支部長の挨拶に始まり、昨年に続いて二回目のせいか、終始、和やかに盛り上がり、暗い仕事の事など忘れての2時間あまりの宴会もお開きとなった。翌朝、昨夜からの雨もなんとか上がった8時半、ホテルを出発、浅間山麓の「鬼押し出

園」に向かった。途中、酒元浅間酒造に寄って、試飲と見学をして、浅間山大噴火の面影を残す、溶岩・火山岩の荒々しい、鬼押し出し園を見物して軽井沢に向かった。白根山、浅間山、軽井沢のコースはまだ木々が色づき始めた程度だった。軽井沢で昼食をして別所温泉近くの「北向観音」に向かった。最近、テレビの旅番組で紹介される様になり長野の善光寺さんの南向観音(あの世での幸せを願う)に対し北向観音は、今の世の幸せをお願いする観音様として紹介されています。山門横には「愛染桂」のモデルとなった見事な桂の木が長い風雪に耐えていました。この旅の安全・家内安全・仕事の安全

をお願いして帰路についた。長いバスの中、沢山の商品が用意されているビンゴゲームが始まり、にぎやかな雰囲気の内にて予定通り無事名古屋に着いた。今回の参加者 33名
熱田・南支部 21名
昭和支部 12名
(熱田・南)伊藤

鯨と人と社会

知立 斎藤孝行

今七つの海に鯨の数を皆さん御存じだろうか、又その鯨が食べる魚などはどの位の量なのか。五月十九日付のサンデー版に詳しくのっている。先頃、IWCの年次総会が日本で開かれた。欧米の鯨を食べない民族の代表は、いわく捕獲の方法が残酷である。数が少ないから保護しなければ。本当にそうだろうか。数については、先程の記事によれば、日本が主に捕獲しているミンククジラは、現在約七十八万頭いるそうである。これは、IWCでも確認しているとの事である。他のクジラについても、詳しくは書かないけれども、徐々にではあるが増えている。北欧のノルウェーでは、毎年多くの鯨を獲り、日本の輸入解除を待っている状態であるという。又、IWCに加盟していない国が捕獲するのは、さほど話題にならない。いや加盟していても余り問題にならない様な気

がするの何故だろうか。動物愛護団体とか、何とかの方々は何を食べているのだろうか。ステーキ、シチュー等は、どうだろうか。それらは動物の肉も入っているのでは、牛や豚は殺しても残酷ではないのだろうか。牛や豚は殺して良く鯨はいけないのだろうか。鯨があまりに大きい為だろうか。そうではない様な気がするか? そうではない様な気がするか? 要は、日本が鯨を捕獲してはいけないのだ。鯨だから、牛だからではなく、もっと違う所での、言ってみれば政治的なものが絡んでいるのだろう。大げさに言えば日本パッシングではないか。又、文化の面でも、アメリカ代表は「アラスカのイヌイト、アジアの一部の先住民は古くからの慣習なので良い」とか、しかしそれは余りに身勝手と言えないか。我国においても和歌山県の太地町を代表として、いくつかの町で、古くから捕獲を慣習として来た。そ

れらは認めないとするのである。穿った見方をすれば、極東の小さな島国が大きくなりすぎた。この島国の住民は、世界の海に乗り出し、縦横無尽に走り回ってきた。これは何も漁業だけでなく、経済の面でも同様に発展してきた。この事が、かつて支配してきた民族に並べれんとしている事実を受け入れる事が出来ないのでは、根本には、第二次大戦の敗戦国という事があるのではない。ドイツでは今でも敗戦処理が続いているし、私の息子が通っていた高校でも、体育祭に、生徒全員による行進、朝礼台に向って右手もしくは左手をかかげる、この行事からナチを連想させると、ドイツからの留学生の意見で中止になった。その事の良し悪しを言う気は全くないが、この事からも敗戦国としての責務を負いつつ今日までめざましい発展を遂げた。日本、ドイツこの二大経済大国(敗戦国)が世界よりパッシング(特に白人社会からの)される遠因(近因か)ではないか。今回の鯨の問題も、もっと科学的な根拠に基づいて結論を出すべきと思う。このまま全ての鯨を保護していけば、やがて人類の食料問題になる。確実に、しかも近い将来に!!

東三青年部勉強会

東三支部青年部（北河秀治部長）は、10月30日（水）、秋の勉強会として、中部セキスイ工業株式会社（工場視察見学）を行った。

中部セキスイ工業（株）は豊橋市明海町に位置し、第一、第二工場合わせて約一六七、〇〇〇㎡の敷地を持つ。今回は第一工場の見学であったが、ここでは、木質系ユニット住宅「セキスイハイム」の設計と製造をしている。

説明や工場内を案内して頂いた担当の方の話によると毎日15棟、17棟を製造し、愛知・岐阜・三重・静岡の4県に出荷しているとの事で、言いかえれば東海4県下で毎日15棟以上セキスイの住宅が建てられている事になる。

製造方法は、流れ作業であるのだが、思っていた以上に手作業が多い。木材の切断・フ



勉強会の参加者

レームの溶接・ボード貼り・パネルの組立など、職人（従業員といった方がよいのかも）が釘機を使用し組立てている。窓や間仕切の位置・内外部の仕様など施主の要望が様々な為、機械での製造より人間の手作業の方が多くなるそうである。

最も驚いたのは、旧家屋の解体から新築引渡しまで50日という工期である。建前（正確にはユニットの据付）から引渡に至っては、大工が一人

で20日、25日あれば完成するそうである。これも家づくり工程の80%以上を工場で生産するユニット工法だからこそできる事であろう。住宅の坪単価・形状・仕様他様々な事は別としても、この50日という工期は施主にとって魅力である事は間違いない。

今回の見学は、平日という事もあって、参加者5名と少々淋しいものになってしまったが、セキスイのユニット工法においては驚かされる事ばかりで、大変有意義なものであった。

東三 松浦

10月各支部の動き

- 名古屋板金連合会 4・5・6日 尾張名古屋職人展に出席
- 千種支部 20日 支部会 4名
・ 県板賦課金値上
・ 保証制度の資格取得と申請の促進

東北支部 12日 定例会 10名
・ 職人展の反省
・ 名古屋連合会ボーリング大会11月に開催
・ 企業年金

瑞穂支部 1日 支部会
・ 職長教育講習の受付
・ 県板共済加入の促進
・ 3事業所加入
・ 名古屋連合会ボーリング大会参加者決定

昭和支部 熱田南支部 6・7日 2支部親睦旅行 21名
草津温泉

尾張板金連合会 27日 中部国際空港視察クルーズ

一宮支部 3日 役員会 15名
春日井支部 21日 青年部月例会 13名
津島支部 23日 役員会 4名
5日 定例会 4名

西三板金連合会 24日 監査会及び総会打合せ会 13名

碧南支部 13日 青年部パーベキュー 25名
30日 集団健康診断の結果による医師との個人面接指導 21名

豊田支部 12日 第7回役員班長会
刈谷支部 7日 定例会 13名
西尾支部 3日 青年部研修会 22名
・ 金属サイディング
・ 安全作業ビデオ
11日 支部役員会 15名
・ 共同購入に今回はビスも取扱う

知多支部 31日 青年部定例会
4日 理事会 16名
11日 役員会 25名
東三支部 4日 定例会・講演会 29名
23日 青年部定例会 9名
24日 役員会 5名
30日 青年部勉強会 6名

県板事務局年末年始のお休み

日ごころは、組合事業にご協力を賜り有難うございます。県板事務局は、12月27日（金）午後から1月5日（日）までお休みさせていただきます。

編集後記

「四季」今年の夏はこのほか暑かったことは皆さんが口をそろえる。十月二十九日はこの冬一番の寒気が南下して伊吹山でも例年より早く雪が観測された。

山の紅葉も例年より早く進んでいて寒暖差が大きくとてもきれいな紅葉である。

地球温暖化が進むとされる温室効果ガスを半減させるための京都議定書で明らかにされているように地球の温暖化が進んでいるようである。

南極では世界平均より速い速度で温暖化が進み驚異的な早さで氷河が溶けているという。

一万年前は氷河期であって地球の寒冷化で水が海に流れず凍って水位が一四〇メートルも下がって日本と朝鮮半島は陸地につながっていたという。温暖化はずっと以前の一万年前前から進んで来た。

が、春が来て夏が来て秋が来ることには変わりなく紅葉したり、雪が降ることは今年も繰り返されるであろう。

「愛板」も変わることもなく受け継がれていく事と確信する。

十月三十日（水）晴
三七七号編集委員会
広報委員 八名出席
午後六時五十分終了